

U18 リーグ戦

夏休み後半より U18 リーグ戦が始まり、T3（3 部）の C グループに所属する Silver Bullets は 3 試合を終えました。

8 月 14 日 高島 48 - 79 福生

8 月 25 日 高島 77 - 58 杉並学院

9 月 6 日 高島 72 - 41 八王子実践

苦しんだ末に得られた夏休みの手応え

夏休みに入って 4 泊 5 日の合宿を終えた後、数多くのチームと練習試合で対戦させて頂きました。今年のチームは選手個々のポテンシャルは高いものの、昨年から試合経験を積んでいるプレイヤーが少なく、勝てないゲームも多かったことで体力的にも精神的にも苦しみました。自分たちの戦い方や強みも定まらない中、1 年生を中心に高校バスケの強度に対応することも大変で、選手の中に戸惑いや不安もあったことと思います。私自身、チームとしてどう戦っていくか、どのように活動していくか悩みましたし、選手個人と時間をかけて話したこともありました。

そうした中で、夏休みの最終盤を迎えたころようやく少しチームが上向く兆しが見られ、手応えを感じられるゲームができるようになってきました。

リーグ戦の結果が表している通り、8 月中旬には苦しかったチームも少しずつ個々の役割が定まってきたことで、プレイヤー同士で共通認識を持ちながらゲームを進められることが増えてきました。勝利した杉並学院戦、八王子実践戦も前半から 20 点近くの差をつけた試合で余裕のあるゲーム展開にも見えましたが、10 日前に試合をしていたら勝敗はわからなかったと考えています。

コート上でのコミュニケーション

苦しんだ時期を超えてチームが力をつけてきた要因は何かと考えた時、一番に挙げたいのはコート上でのコミュニケーションです。夏休みの活動では約 1 週間ごとにチーム目標を自分たちで設定しながら活動してきましたが、選手たちが何度も上げたのが「コート上でコミュニケーションを取ることでした。今の代になって Silver Bullets のゲームをご覧になった方であればすぐにわかると思いますが、試合中、コート上の選手が集まり会話をする機会が格段に増えました。

コート上で声を掛け合うことはその内容以上に選手たちのメンタル面にポジティブな影響を与えていると考えています。ミスをしてしまったり、マッチアップしている相手にやられてしまうと気持ちが落ちてしまいがちですが、そんな時にともに戦う仲間と関わり、決して一人で戦っているわけではないことを再確認できるだけで次のプレーに向かう姿勢が変わって来ます。

コート上で選手同士が話すことをやめなかったからこそ、苦しい状況でもチームがバラバラにならず 8 月後半からのリーグ戦 2 勝につながったと考えています。

これから課題を克服するために

チームのレベルアップに手応えを感じているとはいえ、まだまだ課題は山積しています。

特に 40 分間戦い続ける体力面は物足りない部分があり、今後の活動で克服していかなくてはなりません。そして、ゲーム終盤までパフォーマンスを落とさないためのトレーニングこそ心身ともに辛く、最もチームとしてのタフさが問われる部分です。ここを乗り越えるために今一度、チームで声を掛け合い、全員が同じ方向を向いて戦えることが求められます。

チームのカルチャーとして根付いたコート内でのコミュニケーションを今一度ハードなトレーニング時に発揮し、団結できた時、チームとして一段階、高いレベルにたどり着けると確信しています。